



# 沖縄を切り捨てたのは誰だ!!

一五〇日間の通常国会は、六月十六日に閉じた。今度の通常国会は連立与党の二員として始まり、政権離脱で野党として終わりました。

さて、社民党が連立政権を離脱したのは、普天間飛行場問題が最大要因となったからだ。「国外、最低でも県外」への移設を公約した鳩山前総理は、日米合意と閣議決定で辺野古移設を決定した。挙げ句、地元沖縄との合意、連立政権での合意を無視する辺野古移設決定に反対した福島大

臣(党首)を罷免した。その結果、自らの「政治とカネ」の問題、普天間飛行場問題での迷走と社民党の政権離脱の責任を負って鳩山内閣は総辞職した。言葉に無責任な「宇宙人」宰相の哀れな末路であった。

替わって登場した菅内閣も日米合意を踏襲し、閣議決定に基づく辺野古移設を推進すると言うから恐ろしい。鳩山前総理も菅総理も口だけは沖縄の負担軽減を言いつつ、実際には沖縄を差別し、沖縄に犠牲と負担

を強いる政治を平気でやる。私は思う。明治らしいの

沖繩の近・現代史を顧みるに、常に時の政府(政権)から裏切られ、国策の犠牲にされてきた。昨年八月の「無血革命」と称された歴史的政権交代の実現でも、そのことは変わらなかつた。嗚呼(ああ)、無情。

だが、このような事態になつても私たちウチナンチユは、嘆き悲しみ、沈むばかりではおれない。私は、多くの県民と共に士気を鼓舞して、普天間飛行場の閉鎖・返還と辺野古新基地建設反対の先頭に立つ決意と覚悟を固めている。

福島大臣(党首)は、罷免直後の記者会見で「私は沖縄県民を裏切れない。社民党の理念と政策を曲げるわけにはいかない」と語った。沖縄を切り捨て、連立政権の合意と信義を破つたのは、鳩山前総理と民主党である。

そのことは、はっきり言うておく。

通常国会が終わり、政局は七月十一日の参議院選挙に突入した。今回の参議院選挙は、たくさん争点がある。国民生活に直結する政治課題も多い。だが、沖縄選挙区の最大争点は、「普天間飛行場問題」である。

ならば、沖縄が選択すべきは、辺野古現行案を決めた自公ではなく、辺野古へ回帰する民主党でもなく、普天間飛行場問題の原点に戻って真の解決を目指す社民党しかないと確信する。沖縄選挙区は、山シロ博治予定候補、比例区は社民党で全力を尽くす。

夏至も過ぎ、いよいよ夏一直線。後援会、支持者各位のご健勝を祈ります。

二〇一〇年六月二十三日  
衆議院議員 照屋寛徳



官邸前座り込み行動激励挨拶(4月7日)